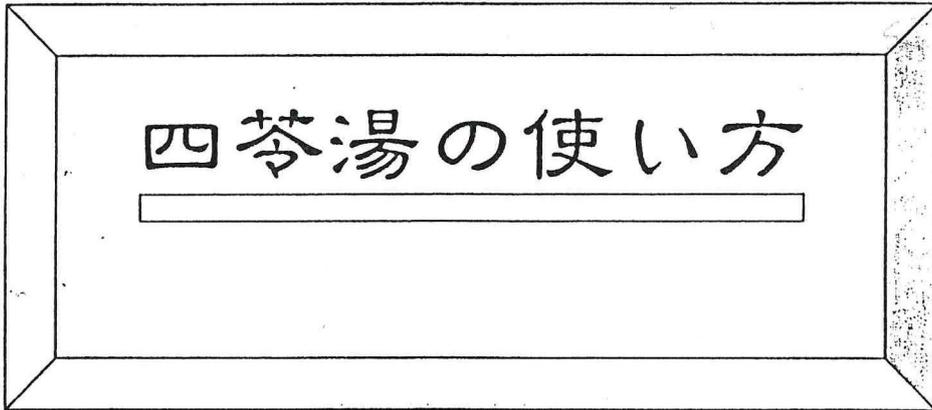


凡凡



# 四苓湯の使い方

1999年7月10日開催

**日本漢方医学広島アカデミー**

より抜粋

監修 小川 新

発行 日本漢方医学広島アカデミー

## 四苓湯の解説

### 序

最近、四苓湯という製剤があることを聞いた。この製剤は単独の使用もさることながら、合方として用いるならばまことに有用な製剤であると思い、小生の漢方製剤加減の経験を元にして、この小論文をまとめてみた。

漢方を日常臨床において実践せられている諸賢、願わくばこの方剤を生かすような経験を集積せられ、著者にもそのご経験をご教示下されば、幸甚至極に存じます。

敬具

平成11年8月26日

広島市 小川 新

## 四苓湯

\*オースギ四苓湯細粒（調剤用）＝1日3gの中に含有する生薬末

|      |        |       |  |
|------|--------|-------|--|
| 【組成】 | タクシャ末  | 0.75g | 腎臓において生成された尿の排泄を促進し、<br>さらに尿路系炎症の抑制的効果もある。                       |
|      | チョレイ末  | 0.75g |  |
|      | ソウジュツ末 | 0.75g | 全身に過剰に偏在している水滯を、血管内に<br>引き入れると共に、消化管の血液循環量を増<br>進し、脾胃の機能低下を改善する。 |
|      | ブクリョウ末 | 0.75g |  |

### 【効能・効果】

喉が渇いて、水を飲んでも尿量が少なく、吐き気・嘔吐・腹痛・むくみ等のいず  
れかを伴う次の諸症

暑気あたり・急性胃腸炎・むくみ

### 【用法・用量】

成人1回 1.0g

15歳未満7歳以上 1回 成人の2/3量

7歳未満4歳以上 1回 成人の1/2量

4歳未満2歳以上 1回 成人の1/3量

2歳未満 1回 成人の1/4量

いずれも1日3回食前又は食間に水又は白湯にて経口投与する。

### 参考使用目標

①体力はあまり問わない。

②体内に水分の停滞があり、口渇・尿量減少・悪心・浮腫等の症状がある場合。

## 第一に、五苓散との違いを理解する必要がある。

四苓湯は五苓散より桂皮を除いた処方、上衝（表証とも言う）の症状である「のぼせ・頭痛・発熱など」のない場合、つまり桂皮による発汗・解熱・鎮痛作用を必要としない場合に処方される。主に消化管内、次いで組織内の過剰水分を利尿によって排除する処方である。つまり五苓散証の上衝（表証）がない場合の四苓湯の適応症と考えても良い。

※五苓散で治す頭痛は、桂皮の作用が必要である。頭痛があるものは四苓湯では治せない。

※四苓湯は五苓散証で頭痛のないもの、便の柔らかいもの、心下のつかえ・小便不利・腰から背中への痛み、汗が出ない時などに用いる。

※四苓湯は副腎ホルモンの副作用である浮腫等の改善で投与しても効果が期待できる。いわゆる中下焦からの水をさばく目的で投与する。

## 四苓湯本来の使用方法は合方にある。

●四苓湯の合方は、五苓散では桂皮が重なり邪魔になる場合に処方される。

※アトピーなどでは、桂皮を含む処方と五苓散の合方の場合、桂皮が重なり皮膚がむくんでくる場合も多いため、四苓湯の合方が有効である。また、便の柔らかいのを治す働きも期待できる。

●お酒をよく飲む女性が多くなったが、二日酔いで処方される五苓散では、胃の調子の悪くなる人や桂皮の味やにおいに敏感で胃になじまないのに飲みにくい人に、四苓湯を処方するのも有効である。酒の好きな人には、桂皮の味に弱い人が意外と多い。手足のむくみに対しても、蒼朮の効果で改善が期待できる。

●赤ちゃん・小児で、五苓散を嫌がる場合も多いが、四苓湯では桂皮が入っていないため飲み易い。

## 【合方例】

### 1. 桂枝加芍薬湯＋四苓湯

大腸炎に使用するが、痛みは止まるが下痢は止まりにくいので四苓湯を加える。  
白朮は脾胃を中心とするが、蒼朮は手足の方向・横方向に向かって水をさばく。  
つまり手足の水を取る作用は白朮より強い。四苓湯で白朮でなく蒼朮を使用する  
意味がここにある。

### 2. 黄連解毒湯＋四苓湯

・黄連解毒湯の証があって、下痢ぎみな人（便が柔らかい人）。

### 3. 四物湯＋四苓湯

・肥満の人。  
・四物湯の証があり、生理不順の人でむくみやすい人。

### 4. 当帰芍薬散＋四苓湯

・生理不順の人。四物湯の証以外で、むくんで便秘のない人・下痢気味の人。  
・当帰芍薬散だけでは、関節痛のある人・下痢ぎみの人は使っても効果が少ない場  
合、より利尿を促すために加える。

### 5. 小柴胡湯＋四苓湯

・柴苓湯では表証の少ない場合は、四苓湯の合方の方が良く効く。腎炎等で小柴胡  
湯証の人で、もう一步小便の出ない人に良い。

（細野氏の処方に小柴胡湯＋茯苓・黄連という方剤があるが同じ考え方。黄連で清  
熱しながら、茯苓で利尿を促す意味があるのでしょう。）

柴苓湯処方桂皮アレルギーでショックを起こす場合があるものに代用。

### 6. 黄芩湯＋四苓湯

〔小児で熱性の下痢→黄芩湯単独  
小児で熱性のない下痢→四苓湯単独

赤ちゃんの風邪ひきで少し熱があり、下痢気味のもので黄芩湯か五苓散かで迷うと  
き、様子を見る意味で黄芩湯と四苓湯を合方すると良い。

## 7. 半夏瀉心湯＋四苓湯

少陽病期～陽明病期にかかったところに有効。

半夏瀉心湯＋五苓散の代わりに。

げっぷ・腹鳴・心下のつかえがあり、半夏瀉心湯の証であって下痢ぎみのものに即効がある。

(下痢を治そうとするとき、四苓湯と合方する。浅田宗伯先生も半夏瀉心湯＋茯苓という方剤がある。)

## 8. 柴胡桂枝湯＋四苓湯

・柴胡桂枝湯＋茯苓・白朮の代わりに使っても良い。

・柴胡桂枝湯だけでは、脾胃の水滯が取れにくい場合に。柴胡桂枝湯の証では、心下の脾胃の水滯を伴うものが案外多い。この場合、柴胡桂枝湯と四苓湯を合方して水滯を取れば、柴胡桂枝湯が良く効く。

## 9. 桂枝二越婢一湯＋四苓湯

リウマチに使用するが、すでに脾胃の水滯も伴っていることが多いので、桂枝二越婢一湯に水滯を取る意味で合方する。

## 10. 桂枝加苓朮附湯＋四苓湯

桂枝加苓朮附湯でもう一步効きの悪い場合、附子を増量するよりは四苓湯を合方する方が良い。

## 11. 茵陳蒿湯＋四苓湯

アトピーや急性じんましんに茵陳蒿湯を処方し良く効くが、ステロイド使用后、脱ステロイドの場合には表皮からの浸出液が多いので、桂皮の入らない四苓湯の方が良い。

喉が渴いて茵陳蒿湯証の場合：

急性のじんましん等でステロイド使用のものは、皮膚の表皮を傷めているので、桂皮を使っても効果がない。その場合、桂皮抜き四苓湯が良い。

じんましん・アトピーに対して茵陳蒿湯単独では大黄が入っているため、軟便の人には使いにくい。四苓湯を加えることで下痢の悪化を防ぐ事が出来る。

12. 四逆散＋四苓湯

四逆散の腹証で心下に水滯があるもの。

13. 真武湯＋四苓湯

真武湯の証ではあるが、もう一つ効きが悪く手足の腫れを引かす作用が弱いいため、もう一步利尿作用が欲しい時に合方する。

14. 補中益氣湯＋四苓湯

補中益氣湯を処方しているもので、手足のむくみのあるものに四苓湯を加える。

15. 十全大補湯＋四苓湯

十全大補湯を処方しているもので、手足のむくみのあるものに四苓湯を加える。

16. 防已黃耆湯＋四苓湯

防已黃耆湯単独では利水効果が十分でない場合に、四苓湯を合方することで利尿効果を引き出す。

17. 小青竜湯＋四苓湯

口渇があり平素よく水を飲む人で、小青竜湯の効く喘息で、鼻水があり下痢ぎみのもの、水滯のあるもの。この証は小児に多い。

18. 八味地黄丸＋四苓湯

八味地黄丸の証で足のむくみがある場合、即効性を期待して四苓湯を合方する。

19. 六味丸＋四苓湯

六味丸の証で水滯が気になる場合、四苓湯を加える。

20. 加味逍遙散＋四苓湯

往來熱寒があり、加味逍遙散の証であり、その上むくみのあるものに四苓湯を加える。

21. 苓桂朮甘湯＋四苓湯

眩暈・耳鳴り・動悸・顔のむくみを呈する苓桂朮甘湯の証で、手足のむくみを伴う場合は四苓湯を加えると効果を増す。